

**【令和4年度 夏季ゼミ 歴史的分野】**  
**主体的に社会の形成に参画する**  
**力を育てる社会科学習**

関ヶ原町立関ヶ原中学校 古田 伸二

(1)事実に関する認識と価値に関する認識の捉え  
 (2)事実に関する認識を獲得する授業  
 (3)事実に関する認識を獲得する授業と価値に関する認識を形成する授業の統合

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

**(1)事実に関する認識・価値に関する認識**

事実に関する認識を獲得する授業	価値に関する認識を形成する授業
<ul style="list-style-type: none"> <li>結論は定まっている</li> <li>歴史的分野では約9割</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>結論は未だ定まっていない</li> <li>日米安保条約を単独で締結したことを支持するか支持しないか</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>北山文化と東山文化の特色にはどのような違いがあるか</li> <li>「前の時代とどのような違いがあるか」</li> <li>御家人は、徳川幕府ではなく、なぜ幕府に味方したのか</li> <li>「なぜ〇〇(人物は)△△したのか」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「その政策を支持するか、指示しないか」</li> <li>「どちらの政策が、最も有効的だといえるか」</li> <li>国家の経済発展と地域の環境保全かどちらを優先すべきか</li> <li>「よりよい社会にするためにはどのようなことが必要か」</li> </ul>

・学習指導要領：「現代の日本と世界」  
 『・・・課題意識をもって多面的・多角的に考察、**構想**し、**表現**する』 ※構想＝選択・判断

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

**(2)事実に関する認識を獲得する授業**

**①各時代の特色を見いだすことができる**  
**指導計画の工夫**  
 概念的知識をどう獲得させ、どのように時代の特色を捉えるか明らかにする。

仏教の伝来 → 国際的な文化+文化の国風化 ← かな文字の成立

**②認識を深めるための指導方法の工夫**  
 歴史的な見方・考え方に基づいて、認識を深める発問及び資料を吟味する。

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

「中世の日本」武士の台頭と鎌倉幕府～モンゴルの襲来～



元の軍：  
約4万人

竹崎季長の軍：  
5人

教師

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

「中世の日本」武士の台頭と鎌倉幕府～モンゴルの襲来～

命をかえりみず、先駆けている。

武士は御恩としての恩賞がほしかった

竹崎軍と元軍の数に大差がありすぎる…。

将軍や国を守るため

生徒

教師

竹崎季長が、たったの5人で、4万人もの元軍に先駆けていったのはなぜか？

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

課題「竹崎季長が、たったの5人で、4万人もの元軍に先駆けていったのはなぜか？」

【自分の生活のため】  
領地をもたず、貧しい御家人だったので、恩賞を手に入れたかった。

【将軍や国のため】  
これまで、将軍が土地や地位を与えてくれたから、将軍や国を守ろうという意志があった。

生徒

竹崎季長は、所領や地位を手に入れ、豊かな生活を送るためや、将軍のために命をかけて戦った。

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

社会的事象や人物の願いを、多面的・多角的に考察  
→時代の特色を深く理解する

助けてくれた人への恩義を形に残したかったのだ。

**鎌倉の武士の生き方の象徴**

生徒 自分の業績を後世に残したかったのだ。 生徒

竹崎季長が絵巻をその時期に制作した意図は？

教師 豊かな生活の人生の終盤・多額の費用

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

(3) 価値に関する認識を形成する授業

① 事実に関する認識に基づく多様な価値の明確化  
多面的・多角的に考察しながら当時の人々の業績や願い、実現のための行動の過程、選択肢などに対する判断基準を吟味・評価する。

② 価値に関する認識を形成するための話合いの組織化  
相互の理解を踏まえて、根拠や判断を比較・関連付けたり、構想(選択・判断)を行ったりしながら、意志決定を促す。

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

「戦後日本の発展と国際社会」～東京オリンピック～

・負しい  
・国際的地位が低い  
・多額→国民の反対

日本の敗戦

教師

東証太郎さんの年表

1973年	東京芸術大学に入学 →木下益三先生に師事
1975年	映画『戦場の鼓動』の音楽を担当
1976年	1976年東京オリンピックの音楽を担当

国民の反対を押しきってまで、オリンピックを実現させようとしたのはなぜか？

1960年 日本は国際社会で重要な地位を築き、国際社会の発展に貢献

1964年 東京オリンピックを開催

1967年 新幹線が開通し、日本の経済がさらに発展

生徒

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

**課題「敗戦後間もない時期に、東さんがオリンピックの実現を目指したのはなぜか？」**

**【国内の情勢】**  
 交通機関や施設の整備  
 →便利で豊かな生活  
 →都市や経済の発展

**【海外との関わり】**  
 オリンピック最大の規模  
 →世界とのつながり  
 →日本の技術力の高さ  
 →国際復帰

日本の経済や技術力を発展させ、国民生活の向上を図るとともに、日本の国際社会への復帰を果たそうとしたのだ。

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

**自分事として課題を捉え、多面的・多角的に考察**

×戦争 ×原爆  
 →平和な世界という未来の創造

戦争の惨禍を受けた国々

最終ランナー  
 1945年8月6日  
 広島生まれ

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

**先人たちの判断について、自分事と捉え、吟味・評価**

**戦後の日本が特に望んでいたことは？**

①世界の平和が6割で、②経済復興が4割…

世界で唯一の被爆国だからこそ、世界の平和を…

国民自らの考えや願いで新しい日本を…

経済発展で戦後の復興を…

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

主体的に社会の形成に参画する力を育てる

価値に関する認識を形成する授業

事実に関する認識を獲得する授業

- ・歴史的事象は単なる過去のできごとではない。
- 過去から現在、未来につながっているもの
- 自分ごととして捉え、よりよい生き方や社会を見いたしていくもの

---

---

---

---

---

---

---

---



---

---

---

---

---

---

---

---

課題として取り組むべき授業

授業の目的・内容・方法

授業の進め方

授業の評価

---

---

---

---

---

---

---

---

授業の目的・内容・方法

授業の進め方

授業の評価